

日本森林学会大会発表データベース

[資料トップ](#) [巻号一覧](#) [この資料について](#)

第129回日本森林学会大会

セッションID: P2-163

DOI https://doi.org/10.11519/jfsc.129.0_609

会議情報

主催: 一般社団法人日本森林学会

会議名: 第129回日本森林学会大会

回次: 129

開催地: 高知県高知市（主に高知大学朝倉キャンパス; 3/26は高知県立県民文化ホール）

開催日: 2018/03/26 - 2018/03/29

学術講演集原稿

森林管理における気候変動適応策の検討

*長池 卓男

著者情報

キーワード: [不確実性](#), [順応的管理](#), [樹種選択](#), [保育](#)

[会議録・要旨集](#) [フリー](#)

詳細

抄録

将来の気候変動に対する影響予測等を踏まえた計画的な適応策を講じることが必要であることから、平成27年8月に「農林水産省気候変動適応計画」が策定された。森林・林業分野については、「山地災害、治山・林道施設」「人工林」「天然林」「病害虫」「特用林産物」について、対策が記述されている。「人工林」については、正確な将来予測のための研究が必要であり、気候変動の影響に関する情報収集、気温上昇や乾燥などの生育環境の変化に対する造林木の適応性の評価、気候変動が造林樹種の成長や下層植生などの樹木の周辺環境に与える影響についての継続的な

モニタリングと影響評価、長伐期林にもたらすリスクの評価、高温・乾燥ストレス等の気候変動に適応した品種開発、が取り組まれることとなっている。諸外国では、予測される事象に適応するために、「混交林の造成」「短伐期化」「種子配布地域の変更」「植栽樹種の変更」等の研究が進められている。一方で、気候変動には不確実性が伴うことから、そのような状況下での意思決定に関する研究も多い。



著者関連情報

© 2018 日本森林学会